



# 学力向上の 実態と取組



## 1 学力の実態

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果  
(身に付けたい資質・能力)

## 2 学力向上の取組

ICTの効果的な活用による  
「探究型・対話型」授業と  
「習得型・反復型」授業の推進

## 3 まとめ





## 1 学力の実態

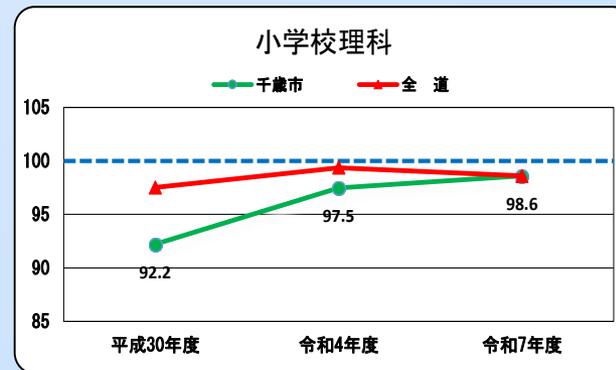
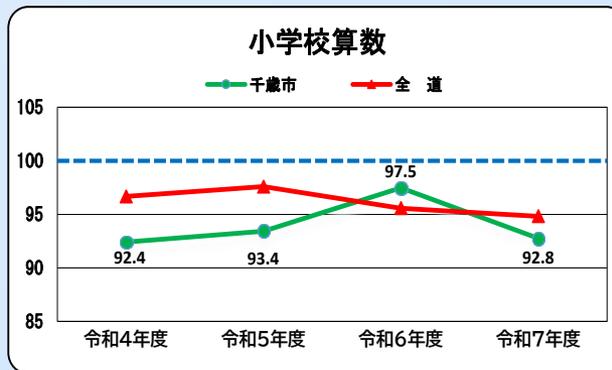
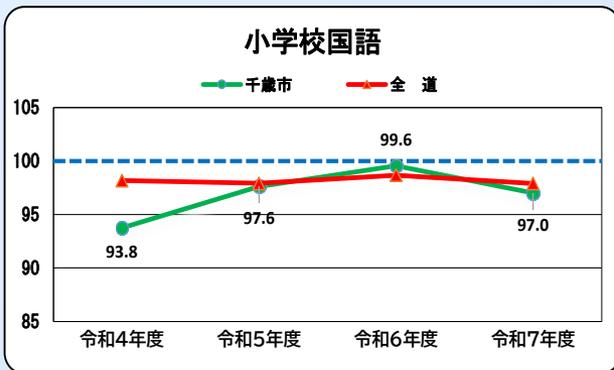
# 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果 (身に付けたい資質・能力)



# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

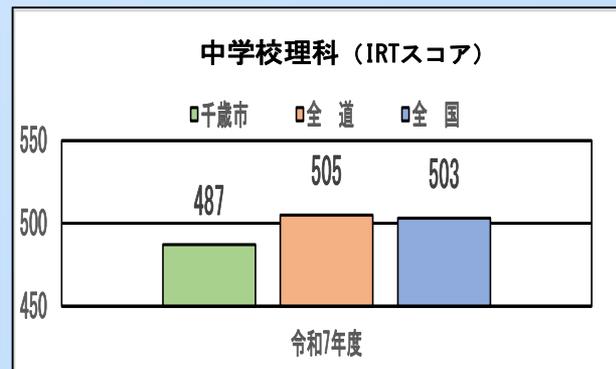
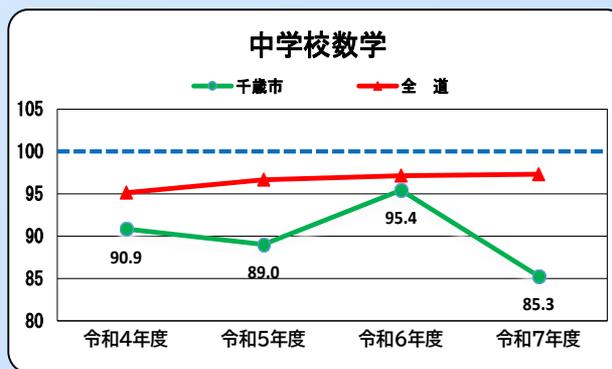
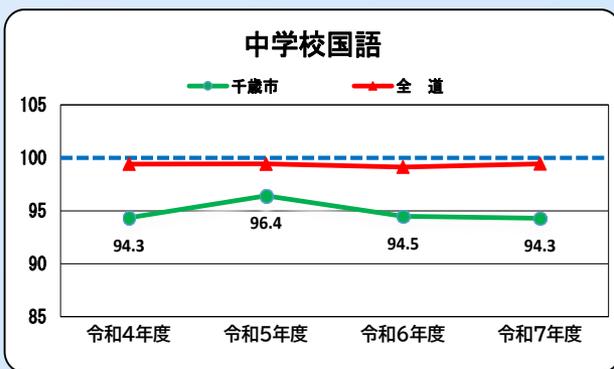
## 小学校

理科で改善した一方、国語・算数は全国を下回り、算数は低下



## 中学校

全教科で全国を下回り、さらに数学は低下



# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

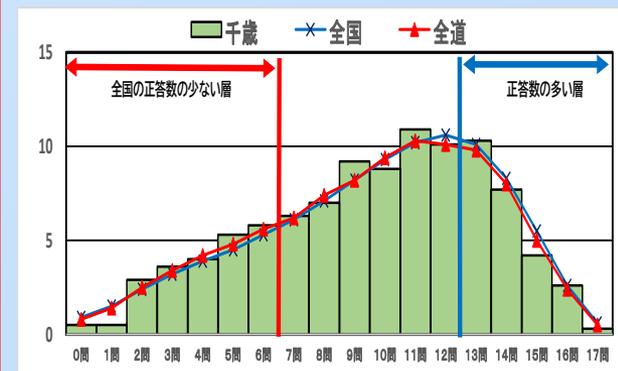
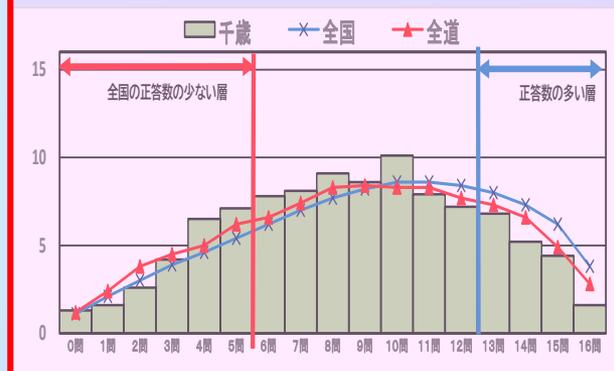
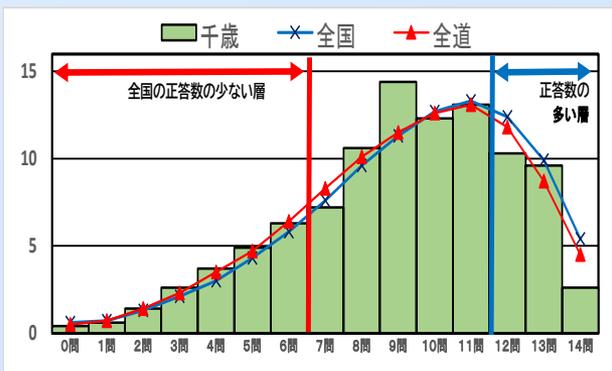
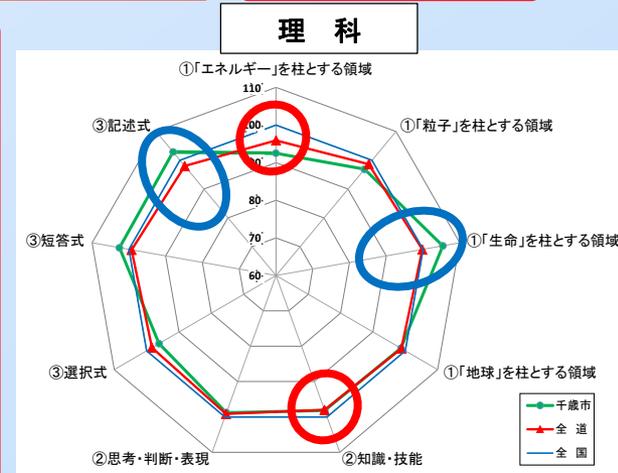
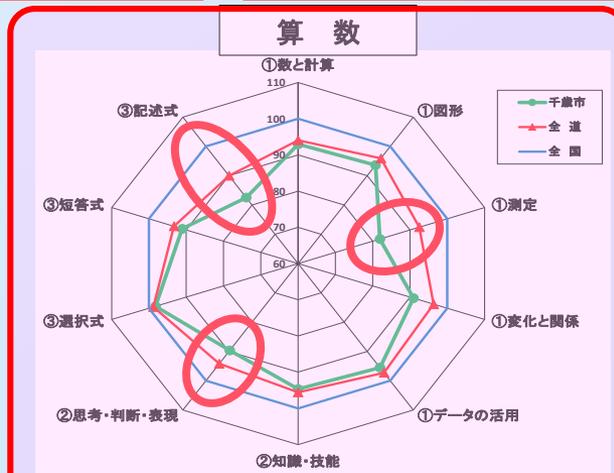
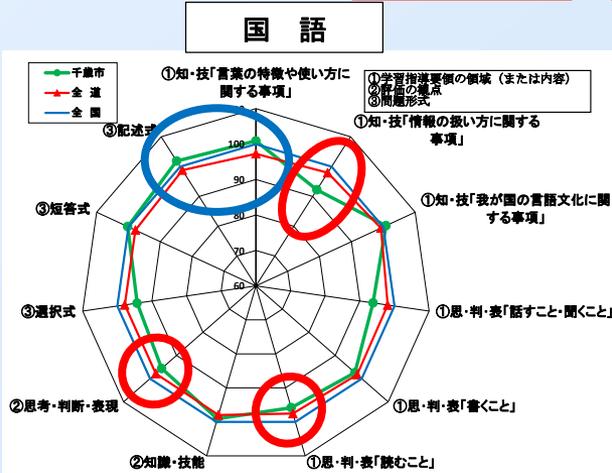
小学校

読解力

記述力

思考・判断・表現

少ない層



# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

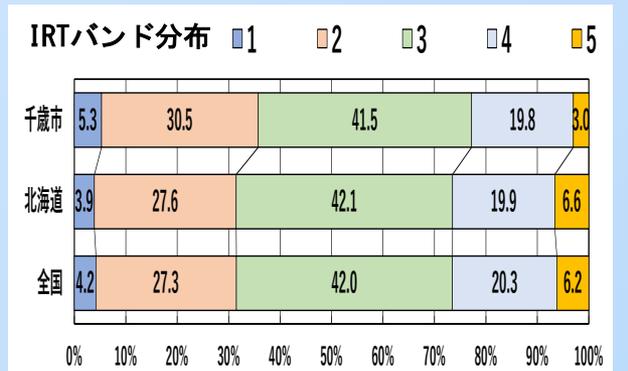
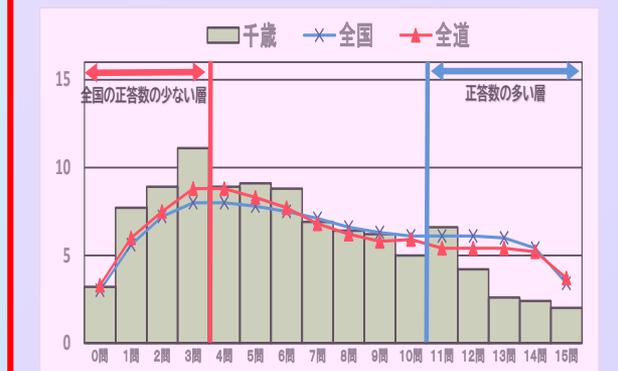
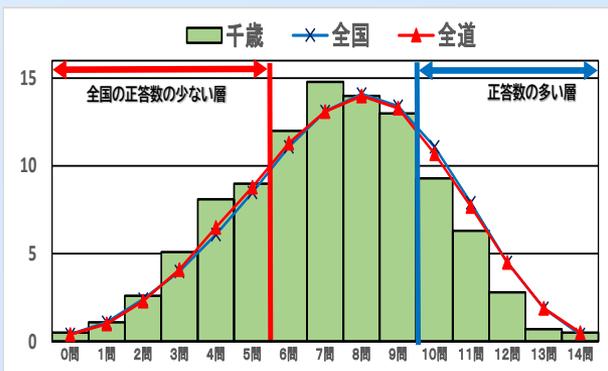
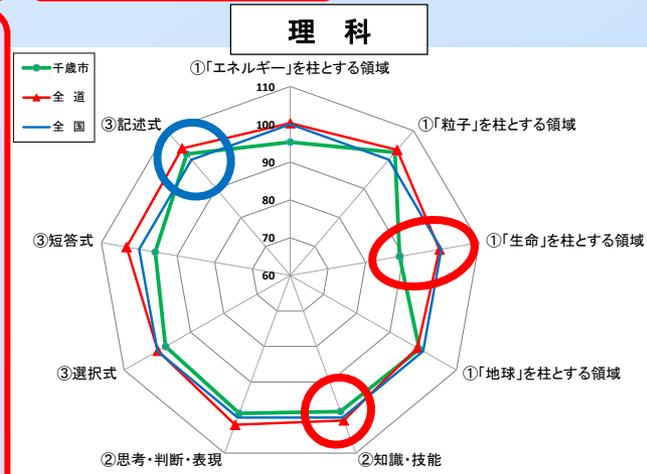
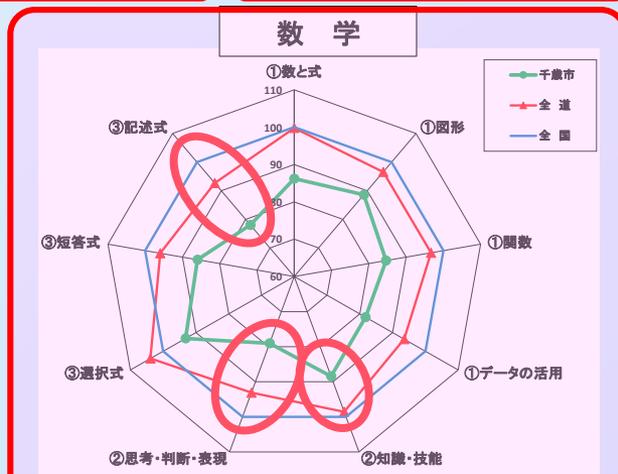
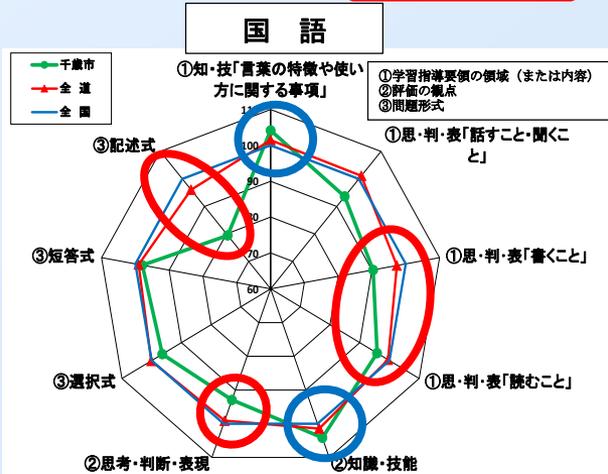
中学校

読解力

記述力

知識・技能

少ない層

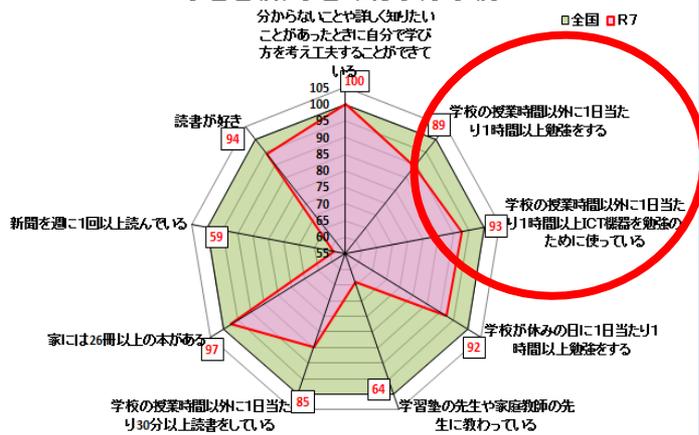




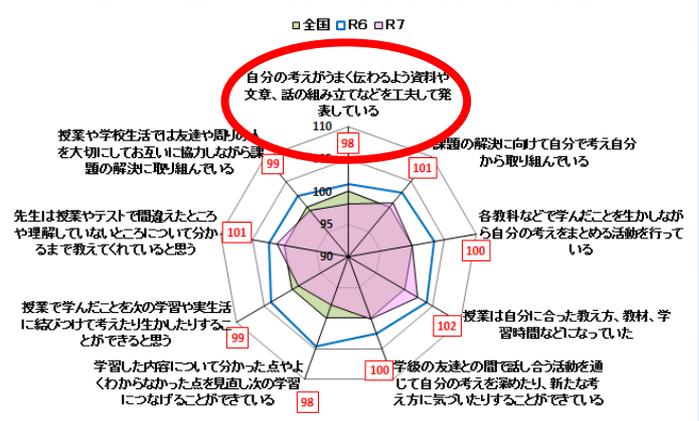
# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

## 小学校

### 学習習慣、学習環境等(小学校)

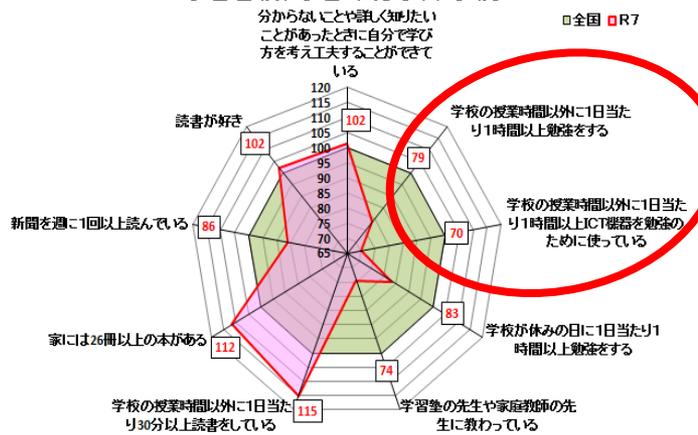


### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(小学校)

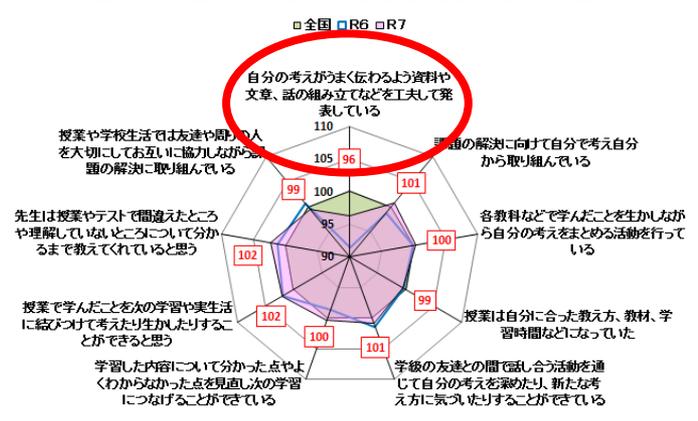


## 中学校

### 学習習慣、学習環境等(中学校)



### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(中学校)



# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

## 小学校

### 思考・判断・表現

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の2個分、 $\frac{1}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  の計算は、 $\frac{1}{5}$  をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  は、もとにする数を  $\frac{1}{5}$  にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$  は  $\frac{1}{4}$  の3個分、 $\frac{2}{3}$  は  $\frac{1}{3}$  の2個分です。

もとにする数が  $\frac{1}{4}$  と  $\frac{1}{3}$  でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$  はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$  はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

**(正答の条件) 次の①、②、③の全てを書いている。**

- ①  $\frac{3}{4}$  と  $\frac{2}{3}$  に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$  であることを表す数や言葉 (分母が12の倍数の単位分数を含む)
- ②  $\frac{3}{4}$  が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③  $\frac{2}{3}$  が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉



	正答率	無解答率
千歳市	16.2%	15.5%
北海道	18.6%	18.1%
全国	23.0%	15.7%

### 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

※太字かつ下線付きの箇所の種類が、正答を表す。

1段目：教育委員会の児童数の割合(%) 2段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%)  
3段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 (2)	3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	16.2	0.3	0.5	4.7	1.3	22.7	6.0		32.9	15.5
		18.6	0.2	0.5	6.6	0.9	24.7	4.3		26.1	18.1
		23.0	0.3	0.5	6.1	1.0	26.2	4.4		22.8	15.7

(正答の条件)

次の①、②、③の全てを書いている。

- ① 3/4と2/3に共通する単位分数が、1/12であることを表す数や言葉(分母が12の倍数の単位分数を含む)
- ② 3/4が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ 2/3が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

1	◎	①、②、③の全てを書いているもの
2		②、③を書いているもの
3		①、②を書いているもの ①、③を書いているもの
4		①を書いているもの
5		②を書いているもの ③を書いているもの
6		通分について書いているもの
7		3/4は1/4の3個分であることと、2/3は1/3の2個分であることの両方、又はどちらか一方を書いているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

○記述力  
自分の考えを  
書こうとしている

▲思考・判断・表現  
確かな「知識・技能」を  
もとに、正しく表現する

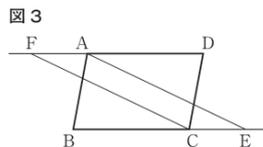


# 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

中学校

思考・判断・表現

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $FA \parallel CE$  ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$

仮定より、

$$DF = BE$$

②、③より、

$$DF - AD = BE - BC$$

④より、

$$FA = CE$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

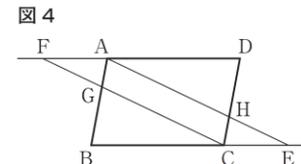


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

(正答の条件) 次の(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。

なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のもとする。

(a)  $AG \parallel HC$

(b)  $GC \parallel AH$

(c) 四角形AGCHは平行四辺形である。



	正答率	無解答率
千歳市	23.8%	40.1%
北海道	30.1%	34.8%
全国	33.2%	31.5%

### 1 学力の実態「令和7年度全国学力・学習状況調査結果」

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	10.9	5.0	3.0	4.9	1.8	3.4	7.8	2.0	21.1	40.1
		14.7	7.8	3.2	4.5	1.0	3.3	9.3	1.7	19.7	34.8
		16.7	7.5	3.5	5.5	1.0	3.3	9.5	2.1	19.5	31.5

(正答の条件)

次の(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のものとする。

- (a)  $AG \parallel HC$
- (b)  $GC \parallel AH$
- (c) 四角形AGCHは平行四辺形である。

1	◎	(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述しているもの
2	○	(a)、(b)、(c)について記述しているが、表現が十分でないもの((a)、(b)、(c)の根拠を含む)
3	◎	上記1、2以外で、正しく証明しているもの
4	○	上記3について、表現が十分でないもの(根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む)
5		(a)、(b)、(c)について記述しているが、証明に誤りを含んでいるもの
6		(a)、(b)について記述しているもの((a)、(b)について、表現が十分でなかったり、根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む)
7		(c)のみを記述しているもの((c)について、表現が十分でなかったり、根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む)
8		上記6、7について、証明に誤りを含んでいるもの
99		上記以外の解答
0		無解答

**▲基礎学力**  
 そもそも解答できていない  
 Q解答時間 A足りない→29.0% (25.1%)

**▲思考・判断・表現**  
 確かな「知識・技能」を  
 もとに、正しく表現する



## 2 学力向上の取組

ICTの効果的な活用による  
「探究型・対話型」授業と  
「習得型・反復型」授業の推進



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (1)千歳市学力向上検討委員会 「11の提言」

#### 「探究型・対話型授業への転換」

##### <学校への提言>

- ①読解力・記述力の向上
- ②「学校改善プラン」の確実な実行
- ③ハイパーQ U検査を活用した学年・学級経営の充実
- ④ICT機器の効果的な活用
- ⑤習熟度別少人数指導の充実

##### <家庭への提言>

- ⑥「千歳市家庭生活宣言」運動の普及
- ⑦家庭学習の習慣づくり

##### <教育委員会への提言>

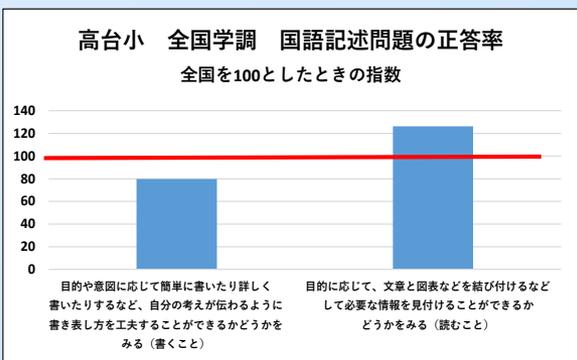
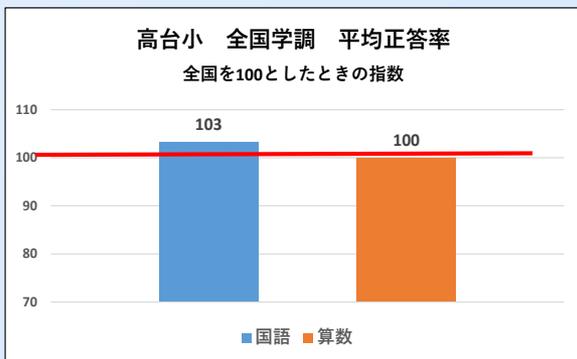
- ⑧ICT環境の整備と活用
- ⑨習熟度別少人数指導への支援
- ⑩諸検査結果の情報提供
- ⑪家庭への支援



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (1)千歳市学力向上検討委員会 「モデル校の取組」

#### 令和7年度モデル校 「緑小学校・高台小学校・勇舞中学校」



#### <重点的な取組>

##### ①読解力・記述力の向上 (高台小)

- ・板書のルールを統一し、ノート指導を徹底
- ・授業終末で振り返りを行い、考えを言語化する
- ・オクリンクプラス、ムーブノートなどのICTツールを活用し、対話型の学習を充実  
意見交換の場を増やす
- ・テスト後に問題を解き直す時間を設定、再指導
- ・家庭学習でデジタルAIドリルを活用

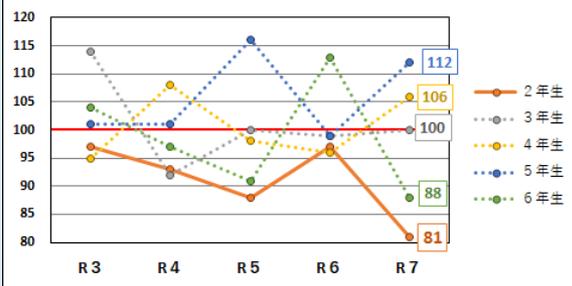


## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (1)千歳市学力向上検討委員会 「モデル校の取組」

令和7年度モデル校 「緑小学校・高台小学校・勇舞中学校」

話すこと・聞くこと (NRT)



#### <重点的な取組>

#### ②学校改善プランの確実な実行 (緑小)

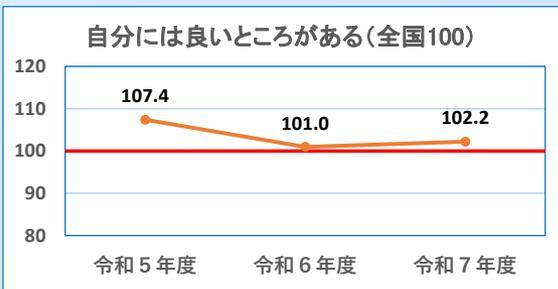
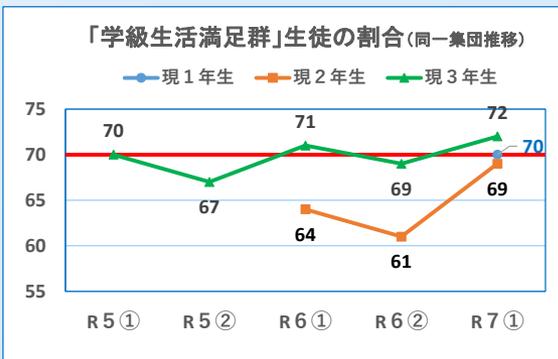
- ・国語では音読や視写、暗唱を指導
- ・低学年では「話し方・聞き方」を徹底指導
- ・調べる力を育むために辞典の活用を促進  
(マイディクショナリー・スタート事業)
- ・算数では朝と昼に「グリーンタイム」を設け、基礎学力を定着
- ・家庭学習の「見える化」で意欲化



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (1)千歳市学力向上検討委員会 「モデル校の取組」

#### 令和7年度モデル校 「緑小学校・高台小学校・勇舞中学校」



#### <重点的な取組>

#### ③個、集団での学びを支える取組(勇舞中)

- ・ハイパーQU検査で生徒一人一人の状態を把握し、集団づくりに反映
- ・習熟度別指導で学力差に対応
- ・「のびしろ層」には長期休業中で補充学習
- ・不登校支援で支援員を配置し、個別指導を強化
- ・生徒の自己肯定感を高めるため、「自己理解に基づく目標設定」を推進



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (1)千歳市学力向上検討委員会 「11の提言」の改訂

#### 「探究型・対話型授業の確立と習得型・反復型授業の充実」 ～ICTの効果的な活用を基盤として～

- ・一斉教授型授業から探究型・対話型授業への転換によって、**記述力などで一定の成果**が上がった
- ・一方で、知識・技能の習得について課題がみられることから「**基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得**」を図ることの徹底が望まれる。
- ・今後は、**学校改善プランを確実に実行**する中で、見通しと振り返りによる自己の変容を見とる力、親和的な学級風土の醸成、ICT機器（特に学習者用コンピュータ）を効果的に活用して、探究型・対話型授業の確立を図るとともに、児童生徒の学習状況に応じながらデジタルAIドリルなどを活用して習得型・反復型授業の充実を図り、「**知識・技能**」と「**思考力・判断力・表現力等**」の**一体的な向上**をめざすこととする。



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (2) 好事例の普及 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」

配置校 「千歳小・緑小」 連携校 「北栄小・信濃小・高台小」

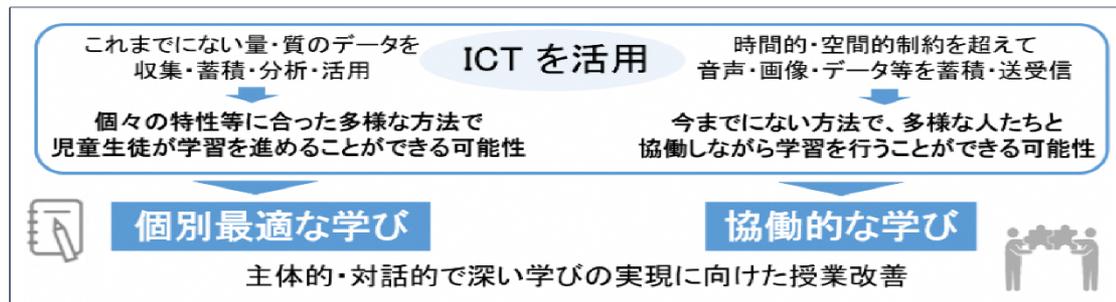
「新しいかたちの学び」の実現に向けた授業改善を通して、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

本事業の計画書で設定した成果指標で授業改善の取組が児童生徒の資質・能力の育成につながっているかを検証し、取組の改善を図る。

R7.4.21 新しいかたちの学びの授業力向上推進事業 事業説明会

#### 新しいかたちの学び

ICTの効果的な活用を通じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による主体的・対話的で深い学び



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (2)好事例の普及 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」

配置校「千歳小・緑小」 連携校「北栄小・信濃小・高台小」



#### <重点的内容>

- ① 1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と家庭学習の充実・指導と評価の一体化に向け、**ICTを活用し、単元全体で児童生徒の学習状況把握や指導の改善を図る工夫**
- ② 配置校の実践の普及・発信  
・管内や道内の授業力向上に向け**映像版実践資料**等を活用した「新しいかたちの学び」の普及・発信

千歳市推進チーム

令和7年度新しいかたちの学び授業力向上推進事業

思考の焦点化と深化を図る  
学習活動の工夫

3年生 国語科(光村図書)

C読むこと領域 「すがたをかえる大豆」



## 2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

### (2)好事例の普及 「学校力向上に関する総合実践事業」

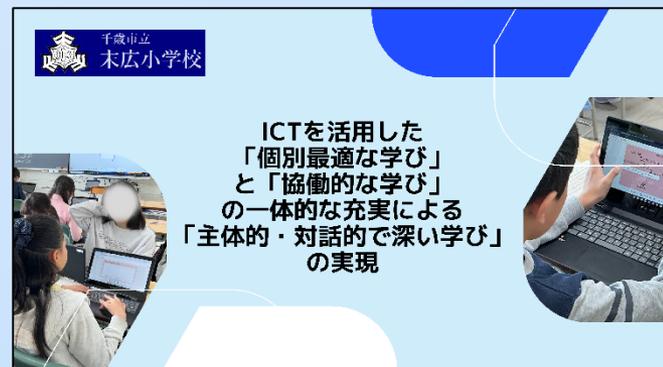
指定校「末広小」 連携校「高台小・千歳第二小・富丘中」

#### <趣旨>

管理職のリーダーシップの下、全教職員が一つのチームとなって、**包括的な学校改革**を図りながら、今日的な教育課題を解決する「令和の日本型学校教育」モデルを構築し、実践の成果を普及・啓発することにより、本道の小・中学校の学校力向上を図る。

#### <内容>

本事業を実施する学校(以下「指定校」という。)は、本事業を中心となって推進する教員をマネジメント推進リーダーとして位置付けた上、次の各号に掲げるテーマの中から**学校課題を踏まえた重点となるテーマを1つ選定**するとともに、**全テーマに係る包括的な学校改革に取り組むこととする。**



#### ④ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現(端末の活用「ステップ3」の実現)
- ・端末の持ち帰りによる家庭学習の充実
- ・学習履歴(スタディ・ログ)など教育データの活用

指定校:末広小学校



2 学力向上の取組 ICTの効果的な活用による「探究型・対話型」授業と「習得型・反復型」授業の推進

(2)好事例の普及 「学校力向上に関する総合実践事業」

指定校「末広小」 連携校「高台小・千歳第二小・富丘中」

すえひろスタイルによる子どもが主体のICT活用 Ver.1

すえひろスタイル	児童・教師の活動
す すぐに確認 今日の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前時までの学習の振り返り・学習テーマ確認の場</li> <li>• 問題提示の場</li> </ul>
え ながいでみよう 課題への意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題づくりの場</li> </ul>
ひろ ひろびよう 探めよう まとめよう	<p><b>マイボードに自分の考えを書く。</b></p> <p><b>理由や根拠を明確にして書く</b></p> <p>他者参照して、自分の考えを修正、補強する</p> <p>自分の考えが伸びていない時は参考にする、まねをする</p> <p><b>みんなのボード、提出BOX</b></p> <p>共通点 類似点 相違点</p> <p>マイボード 自分でまとめる</p> <p>みんなのボード 提出BOX</p> <p>全体でまとめる</p>
のぼそう 自分の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まとめて振り返りの場</li> <li>• 個別的・協働的な学びの場</li> </ul>
こ こんどは自分で やってみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 演習・習熟の場</li> <li>• 新たなはてな(?)を持たせる場</li> </ul>

< 重点的内容 >

④ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現  
(端末の活用「ステップ3」の実現)
- 端末の持ち帰りによる家庭学習の充実
- 学習履歴 (スタディ・ログ) など教育データの活用



## 3 まとめ



### 3 まとめ

全国学力・学習状況等調査 = 学習指導要領が目指す資質・能力の把握

「探究型・対話型」授業と  
「習得型・反復型」授業の推進 から

探究型・対話型授業の確立と  
習得型・反復型授業の充実

ICT(授業支援ソフト・デジタルAIドリル・電子黒板など)の効果的な活用

